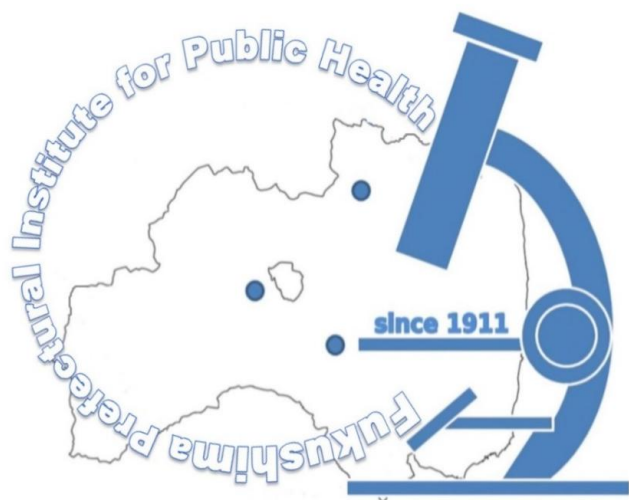


# シン・所長の部屋

麻疹(はしか)について  
最近日本でも流行している  
**とてもコワ〜い感染症**

令和8年4月

福島県 衛生研究所



Fukushima Prefectural Institute for Public Health

# 麻疹(はしか)とは？

## 麻疹ウイルス

## の感染で生じる全身感染症

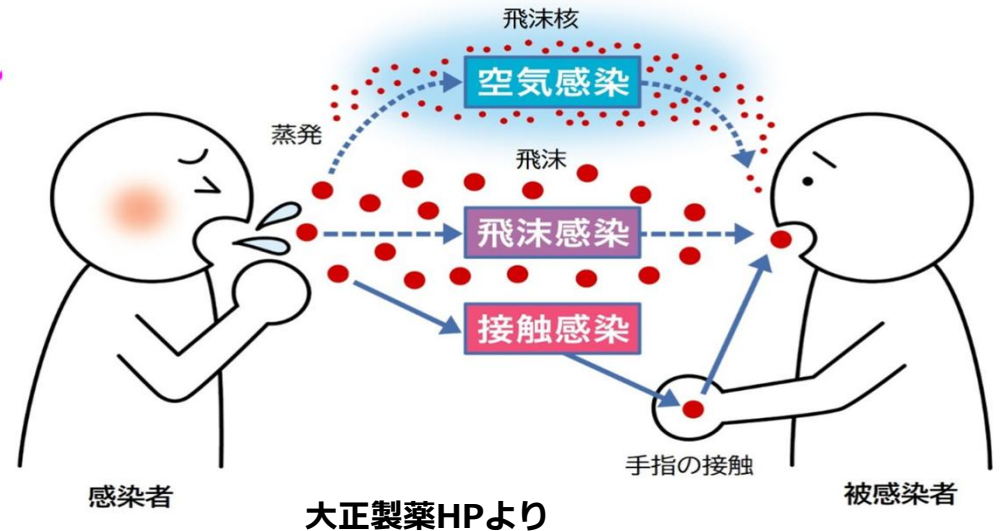
とても**感染力が強く**、  
少しの接触でも  
**ほぼ100%感染**する

感染様式は。  
接触、飛沫、**空気感染**

すれちがったくらいでも  
**感染する**

### 麻しん(はしか)はどんな病気？

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。  
麻しんウイルスの感染経路は、**空気感染**、**飛沫感染**、**接触感染**で、**ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強い**とされています。**免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続する**とされています。



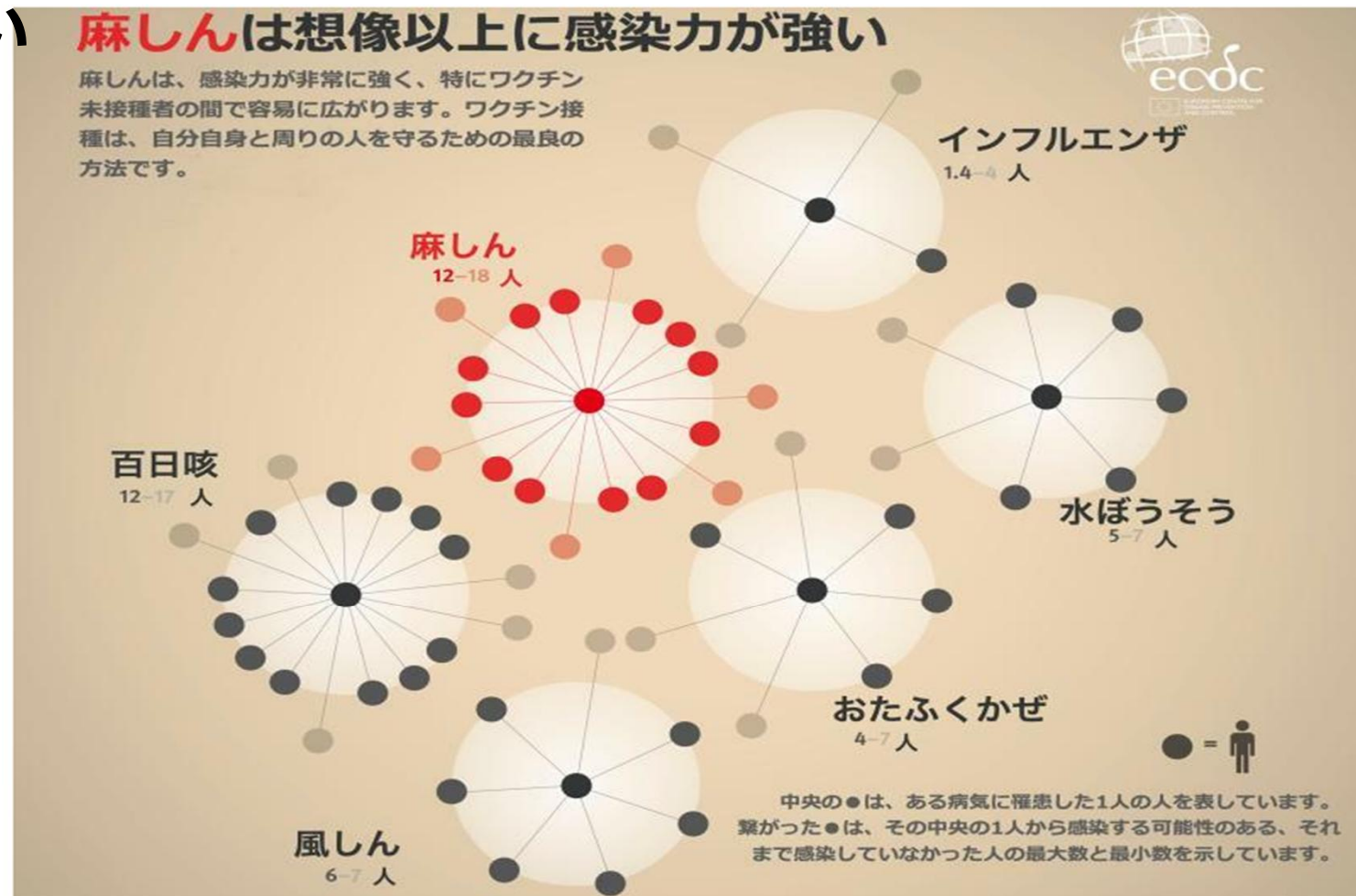
# 麻疹は、すぐに感染してしまう！

麻疹は極めて感染力の強い感染症

麻疹は、感染力が強い  
インフルエンザの  
約10倍くらい  
伝染性感染症の中では  
一番強い感染力

風疹  
おたふく  
水ぼうそう  
新型コロナ

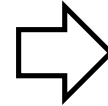
よりも強い！



麻疹と他の感染症との感染力の比較 (ECDC infographicより筆者訳)

# 麻疹の症状と経過

**風邪様症状と特徴的な全身皮疹、コプリック斑**



主訴

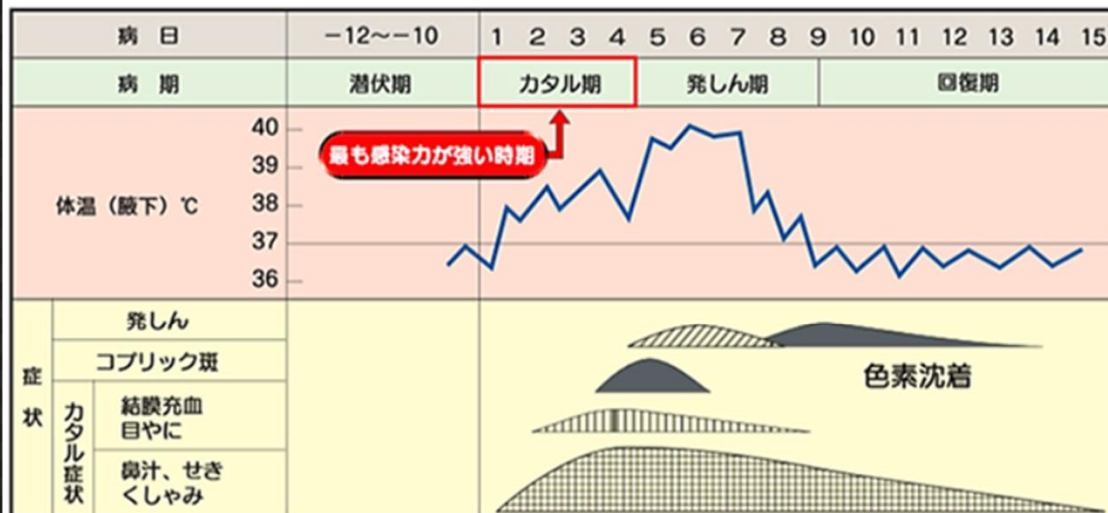
発熱 (38℃以上)  
強い全身倦怠感、鼻炎、咽頭炎症状  
眼球結膜充血  
皮疹

カンゴールHPより

身体症状

全身症状は強い  
発熱 (38℃以上) が2峰性に出現  
かぜ症状：鼻水、せき、結膜炎、強い全身倦怠感  
コプリック斑  
赤色斑状皮疹 (顔→体幹→四肢の順に拡大)

麻疹 (はしか) の症状



藤井良知、西村忠史、中村健：小児感染症学、第1版、南山堂、東京、1985、pp.14より改変

免疫機能低下状態が数週間にわたって続く

麻疹であることに気づかずに行動



感染を広げる

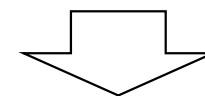
潜伏期間  
**10~12日間**くらい

**カタル期が最も感染力が強い**

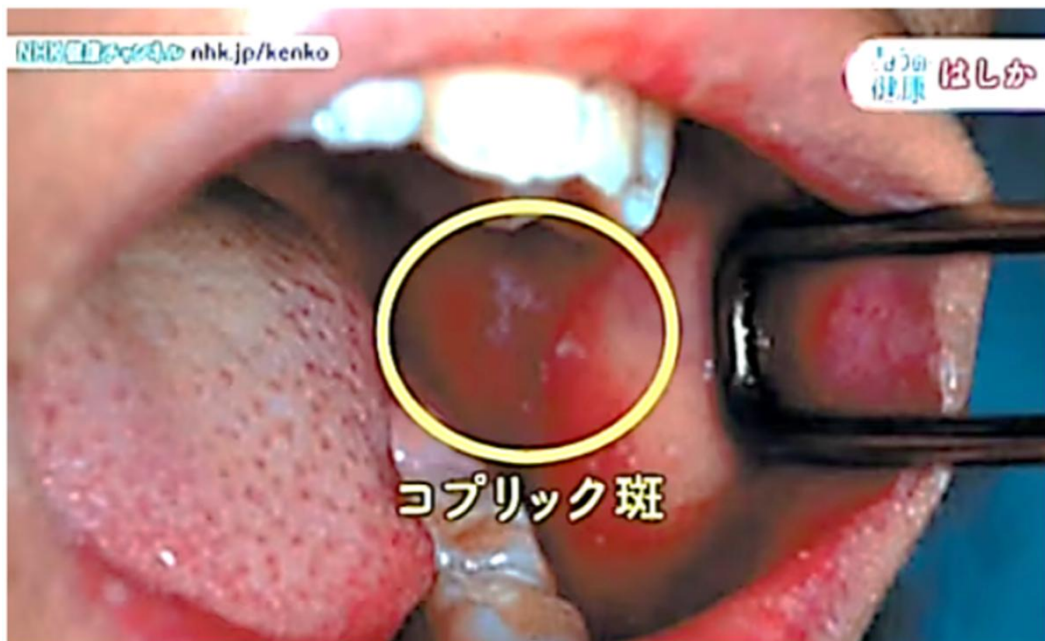
島根大学松江保健管理センターHPより

# 目で見える 麻疹の症状

細かい粒状発赤疹が徐々に融合していく



コプリック斑 (NHK「きょうの健康」より)



# 麻疹の合併症

コワ〜い

中耳炎、胃腸炎は多いが、  
頻度は少なくとも  
重篤な、命に係わるものは

**肺炎**：6%くらい、**小児の死因第1位**

**脳炎**：1000人に1例程度だが、  
15%位死亡、25%位に後遺症

**亜急性硬化性全脳炎(SSPE)**

最も重篤で、幼児期の感染後、  
4~8年過ぎて発症し、死に至る  
2000人に1人くらい

## 麻しんによる合併症



小児の麻しん患者100人のうち7~9人は  
**中耳炎など耳の感染症**を起こし、  
難聴の原因になることもあります



麻しん患者100人のうち  
8人は**下痢**をします



麻しん患者100人のうち  
6人は**肺炎**を起こします。  
肺炎は小児の麻しん患者での  
死亡原因で最多のものです



麻しん患者1000人のうち  
1人は**脳炎**を起こします。  
脳炎によって痙攣を起こしたり、  
難聴や知的障害の原因になります。



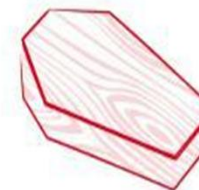
角膜（眼球の一番外側の組織）の破壊  
などによる**眼の障害**によって、失明  
を起こすことがあります。これは特に  
栄養失調やビタミンA欠乏の小児で  
みられやすいとされています。



まれな合併症として命にかかわる脳  
の合併症が起こることがあり、  
**SSPE（亜急性硬化性全  
脳炎）**と呼ばれる脳炎が感染か  
ら数年後に起こることがあります。



麻しん患者のうち  
4人に1人は**入院**を要します



麻しん患者のうち  
最大で1000人に1人が麻しん  
によって**死亡**します

麻しんによる合併症の種類と頻度（ECDC infographicより筆者訳）

草ヶ谷医院 HPより

# 日本での麻疹発生状況

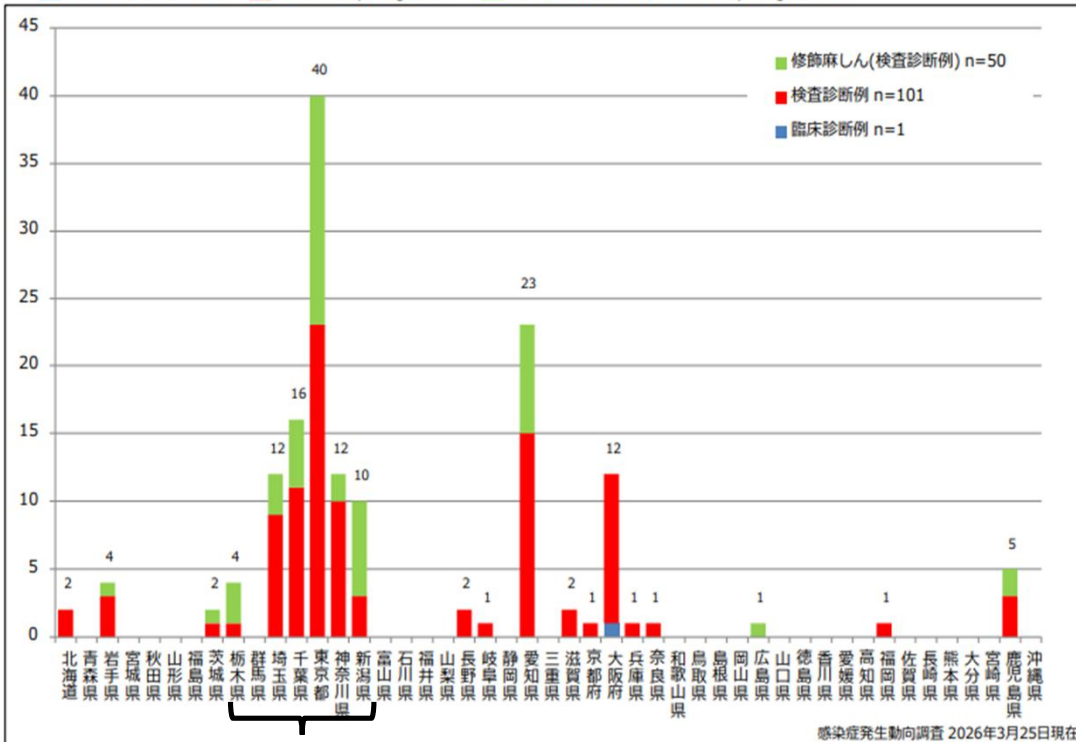
## 今年のと道府県別の発生状況

日本では、2015年以降、「麻疹排除状態」である。  
 2019年は、外来感染で感染拡大  
 今年も、例年になく多く発生  
 外来感染からの拡散か？

### 4. 都道府県別病型別麻疹累積報告数 2026年 第1~12週 (n=152)

Cumulative measles cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-12, 2026 (as of March 25, 2026)

■ Clinically diagnosed ■ Laboratory diagnosed ■ Modified measles, Laboratory diagnosed



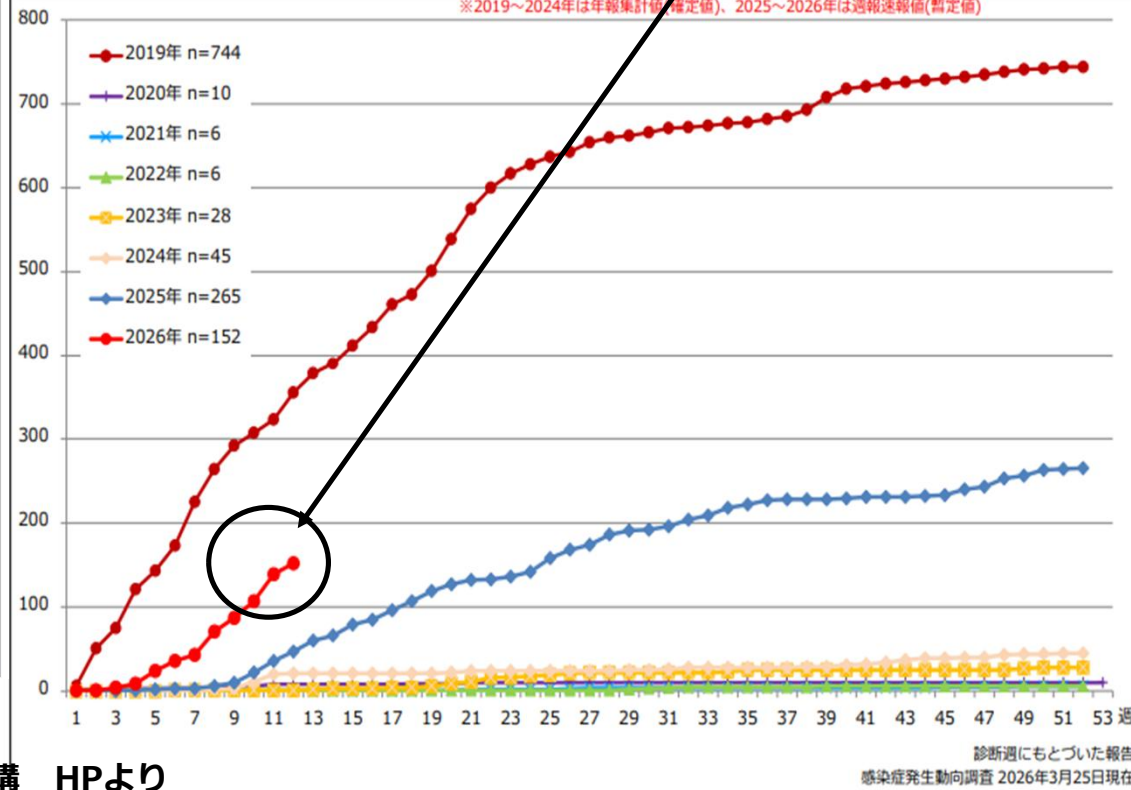
関東と愛知で多く発生

JIHS 国立健康危機管理研究機構

### 1. 麻疹累積報告数の推移 2019~2026年 (第1~12週)

Cumulative measles cases by week, 2019-2026 (week 1-12) (based on diagnosed week as of March 25, 2026)

※2019~2024年は年報集計値(暫定値)、2025~2026年は週報速報値(暫定値)



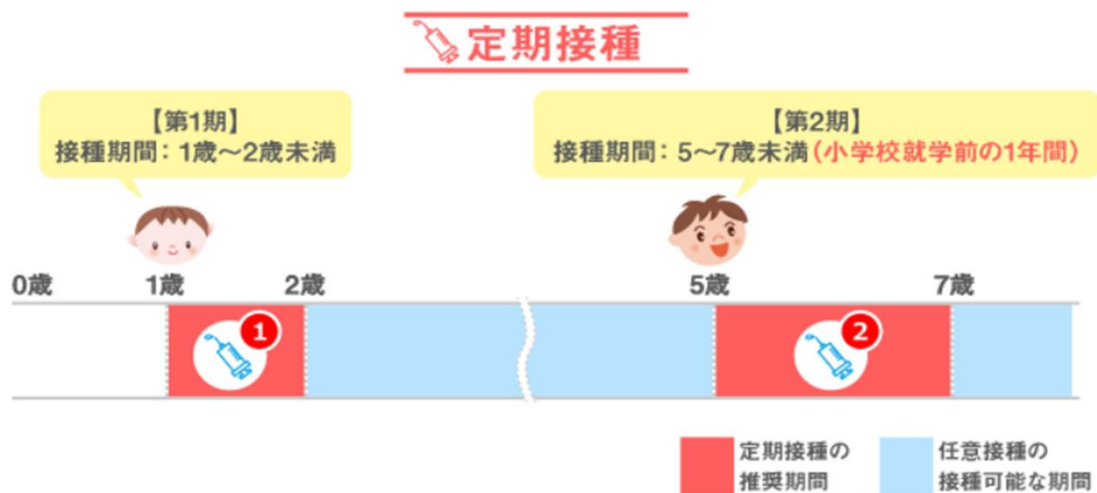
HPより

診断週にもとづいた報告  
 感染症発生動向調査 2026年3月25日現在

# 治療と予防

麻疹に、  
抗ウイルス薬 対症療法だけ  
のような特異的な治療法はない

唯一の効果ある治療は、  
ワクチン接種による抗体獲得 のみ  
乳児期(1歳頃)  
幼児期(6歳頃) の 2回接種を推奨



ワクチン.net 田辺ファーマ HPより

参考資料：日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール（2025年5月改訂版）

JIHS 国立健康危機管理研究機構 HPより

95%以上が目標

2024年4月1日～2025年3月31日

No.	都道府県	第1期	第2期
	合計	92.7	91.0
1	北海道	93.0	89.4
2	青森県	92.1	93.1
3	岩手県	91.7	93.0
4	宮城県	94.4	89.4
5	秋田県	90.0	94.2
6	山形県	92.7	92.8
7	福島県	95.1	93.4
8	茨城県	90.9	90.7
9	栃木県	91.9	90.0
10	群馬県	90.7	92.6
11	埼玉県	92.9	91.5
12	千葉県	94.1	92.3
13	東京都	94.3	90.8
14	神奈川県	94.8	90.4
15	新潟県	92.8	94.1
16	富山県	91.8	93.5
17	石川県	93.5	90.6
18	福井県	92.6	92.4
19	山梨県	94.6	91.4
20	長野県	90.5	91.1
21	岐阜県	91.7	89.8
22	静岡県	92.6	88.7
23	愛知県	93.4	92.0
24	三重県	91.3	90.7
25	滋賀県	94.8	92.4
26	京都府	91.5	90.8
27	大阪府	93.5	91.4
28	兵庫県	92.4	92.1
29	奈良県	92.2	91.0
30	和歌山県	93.2	91.4
31	鳥取県	90.4	91.6
32	島根県	91.3	92.5
33	岡山県	91.6	93.2
34	広島県	91.2	90.2
35	山口県	94.6	92.6
36	徳島県	89.6	92.2
37	香川県	90.6	94.3
38	愛媛県	90.5	91.2
39	高知県	91.0	89.4
40	福岡県	92.5	90.8
41	佐賀県	89.7	90.6
42	長崎県	87.6	87.8
43	熊本県	88.3	91.1
44	大分県	90.0	89.7
45	宮崎県	90.1	91.3
46	鹿児島県	88.8	86.9
47	沖縄県	86.3	82.8



# 麻疹ワクチンについて

**ワクチンは必ず2回接種しましょう！**

椿ヶ丘医院 HPより

## はしか ワクチン接種状況

生まれ	予防接種	対策
～1972年9月30日	未接種の可能性	感染歴ある人以外 2回接種を
1972年10月1日～ 1990年4月1日	1回 (追加接種措置対象外)	1回のみの場合 追加接種を
1990年4月2日～ 2000年4月1日	1回 (追加接種措置対象)	1回のみの場合 追加接種を
2000年4月2日～	2回	2回未完了なら接種を

日本プライマリ・ケア連合学会のウェブサイトより

**この世代の人々は、  
感染リスクが高い！**

ワクチンを接種して感染を予防しましょう！

麻しん(はしか)・風しんワクチン  
**2回接種 済んでいますか？**

ワクチン接種は唯一の有効な予防法です

- 1歳から2歳になるまでの間に1回
- 就学前の1年間にもう1回



# 麻疹ワクチンのまとめ

## 唯一の予防はワクチン接種です。

### 接種回数2回・免疫がつくまで約2週間

定期接種では1歳と小学校入学前。免疫がつくまで約2週間。  
接種できるのは医療機関(病院・クリニック)。  
小児科もクリニックによっては大人にも接種してくれるところも。

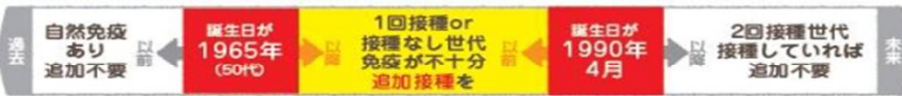
- 接種後2か月は避妊が必要です。
- ワクチンの種類は、麻疹単独ワクチンとMRワクチン(麻疹風疹混合)があります。単独ワクチンは不足しており、風疹の予防もできることから麻疹風疹混合ワクチンを接種しましょう。



### 定期接種以外で予防接種すべき人は？

- 麻疹の予防接種を過去未接種もしくは1回しか接種されていない50歳未満
- 海外渡航予定の方(行先は問いません)

2回接種で十分な免疫が付き(97~99%)。  
50歳以上は流行した時代で多くの方には自然免疫があります。  
また、アジア、アフリカだけでなくヨーロッパでも麻疹は流行しており、どこであれ海外渡航する際には麻疹が2回接種されていることを確認し、足りなければ追加してから渡航してください。



### ワクチン接種できない方

- 免疫不全などの病気の方
- 1歳未満の乳児(自治体によっては流行時には公費で接種できることあり)
- 妊娠中の方(2回接種が未完な場合、妊娠中は接種不可)

これらの方は、流行がある場合には人ごみを避けてください。



### ワクチンの副反応

初回接種後に発熱が20~30%、発疹が10%出ますが、通常の麻疹と比べると症状ははるかに軽くなります。

## よくある質問

Q 1歳未満の乳児は接種できませんか？

A 生後6か月未満は母親の抗体が乳児の体に残っていて、ワクチンを接種しても中和されてしまい免疫が付きませんので接種しません。  
生後6か月以降1歳未満は、専門家によってさまざまな意見があり定まっていません。流行があった場合には公費負担ですめることもあります。  
1歳未満で接種した場合でも、1歳を過ぎたら必ず定期接種を行います。  
乳児のご両親は1回接種世代の可能性が高く、ご両親自身がしっかり追加接種して乳児に感染させないことが大切です。



Q 1~6歳で就学前の2回目をまだ接種しておらず、1回しか接種していない幼児はどうすればいいですか？

A 基本的には1回接種が済んでいるので免疫で守られています。保護者をご希望であれば、この期間に任意接種(自己負担)で2回目を接種することは可能です。接種した場合も必ず就学前の定期接種は行ってください。定期接種対象者や2回接種完了していない成人と比べると優先順位は低くなります。



Q 授乳中ですが、ワクチンを接種しても子どもに影響はありませんか？

A 授乳中も接種可能です。母乳中にわずかにワクチンの成分が検出されることもありますが、それによる赤ちゃんへの影響はありません。



Q 子どもの頃に麻疹にかかったと言われましたが、1回接種世代です。追加した方がよいですか？

A 確実に麻疹にかかったのであれば、生涯にわたる免疫があるため追加接種は不要です。ただ麻疹と思いついていた病気が発熱や発疹が出る他の病気(風疹や川崎病など)と混同されていることもあります。確実に言い切れないのであれば1回追加接種をお勧めします。もし免疫がすでにある状態で追加接種しても問題はありません。

Q 追加接種の前に抗体検査を受けた方がよいですか？

A 希望があれば医療機関で抗体検査を受けられます。保険適用外のため医療機関によって値段が異なりますので、事前に確認を。ただし既に免疫があったからと言って追加接種で困ることはありません。特に1回接種世代は子育て世代で忙しく、なかなか病院を複数回受診することも難しいので、検査せずに追加接種するののも一つの方法と考えています。



# 麻疹(はしか)の特徴

麻疹(はしか)

- 潜伏期間は**10日程度**
- 発熱・咳・鼻水など風邪のような症状のあと  
2～3日後には**39度以上の高熱と発疹**
- 肺炎や中耳炎などの**合併症を起こしやすい**
- 患者**1000人に1人の割合で**  
**脳炎を発症する**といわれている



You tube 感染症・予防接種ナビ より

**麻疹は、学校保健安全法 の取り扱いでは  
解熱後3日経過するまでは出席停止 となっております**

# 麻疹の啓発ポスター

感染症対策

厚生労働省 HPより

## 麻疹 (はしか) に

ご注意ください



症状

感染すると約10日後に発熱やせき、鼻水といったかぜのような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。

感染経路

空気感染等により、簡単に人から人に感染します。麻疹の免疫が不十分な人が感染すると、高い確率で発症します。

予防方法

### 麻疹かな？と思ったら

医療機関に電話等で麻疹の疑いがあることを伝え以降は医療機関の指示に従ってください。医療機関への移動の際は公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

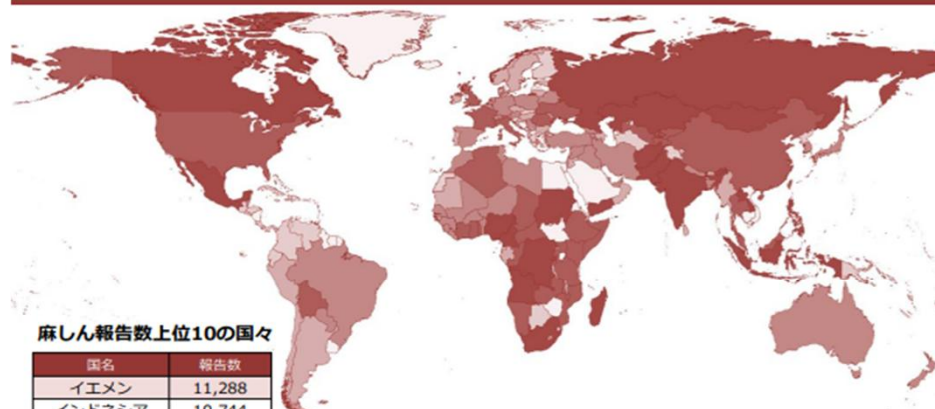
ワクチン接種が有効です。定期接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）、医療・教育関係者、海外渡航を計画している方は、予防接種が済んでいるかご確認ください。



海外での感染にもご注意ください

海外へ渡航される方へ

「麻疹（はしか）」は  
世界で流行している感染症です。



麻疹報告数上位10の国々

国名	報告数
イエメン	11,288
インドネシア	10,744
インド	9,666
パキスタン	7,361
アンゴラ	4,843
ラオス人民民主共和国	3,167
メキシコ	2,846
ナイジェリア	2,755
アフガニスタン	2,668
モンゴル	2,551



日本国内で届出された麻疹症例の推定感染地域



2026年第1週～第9週（令和7年12月29日～令和8年3月4日）

WHO(世界保健機関) 麻疹報告数 (2025年7月～2025年12月)

令和8年2月現在；一部改変

<https://www.who.int/teams/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance-monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

## 海外へ行く前に

- 麻疹の予防接種歴を母子手帳などで確認しましょう
- 定期接種を受けていない方は、接種を検討してください